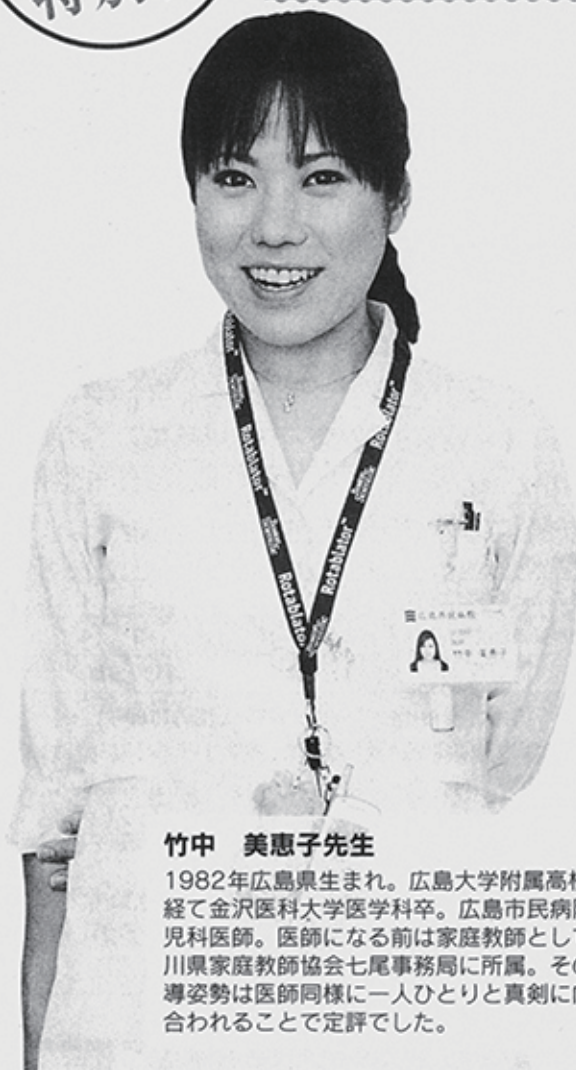


スーパー
家庭教師
インタビュー
特別編

今回はチョット志向を変えて特別編をお伝えいたします。竹中先生は元家庭教師で現在は小児科の現役医師という経歴。これから医師を目指す生徒さん、そしてなかなか聞けない医師のホンネをレポートします。



竹中 美恵子先生

1982年広島県生まれ。広島大学附属高校を経て金沢医科大学医学部卒。広島市民病院小児科医師。医師になる前は家庭教師として石川県家庭教師協会七尾事務局に所属。その指導姿勢は医師同様に一人ひとりと真剣に向き合われることで定評でした。

●先生は医師になる前に数多くの生徒さんを指導して頂きましたが、家庭教師を始めるキッカケはなんですか？

私自身、小学校、中学校、高校受験の際に、7人の家庭教師の先生にお世話になってきました。素晴らしい先生との出会いは私の人生を変えてくれたと思っています。医学に興味があると同時に、教育にも大変興味があったので、私が今まで家庭教師の先生に教えて頂いたことを私も教えていきたいと思い、家庭教師を始めました。

●ご自身の医学部受験のエピソードを教えてください

高校3年生までは文系の勉強を中心にしていました。その受験勉強中、突然最愛の祖父を目の前で亡くし、言葉に出来ないショックを経験しました。今でもその時の光景ははっきり覚えています。「最期まで家族を守るために医師になろう」そう思ったのが、医学部を志したきっかけです。

しかし文系の勉強しかしたことなかった私にとって、数学Ⅲ・Cや物理化学など、暗号にしか見えませんでした。そこで一から独学で勉強しながら、科目毎に家庭教師の先生に毎日来て頂きました。

受験前の半年は、一日16時間勉強しました。勉強帳を付け「今日は何をどこからどこまでやった」また「明日の予定」も徹底的に管理しました。やってもやっても合格するという保証のない中で、孤独な戦いは辛いものがありました。その時お世話になった家庭教師の先生や家族がいつも励ましてくれたお陰で今の私があると感じています。

●家庭教師も医師も「治す」という観点では通じる所があると思います。先生は家庭教師と医師との共通点について何か持論はありますか？

診察でも、自分の診察に絶対の自信を持ち、自分の考えを押しつけるのではなく、どうしてそうしたのかを、患者様のご意見をうかがいます。そこから見えるヒントも多いので。

家庭教師でも、分からないことを分からないと言える雰囲気を作ることが、それに当たると考えます。勉強をしながら、一番損をするのは、分からないことを質問できないままにする子だと思います。「些細なことでもすぐに質問してね」と常日頃から私の生徒には伝えてました。質問しやすい環境作り、話しやすい環境作り、その環境を作る面一つを取ってみても、通じるところは無数にあると思います。



質問しやすい環境作り
話しやすい環境作り

●家庭教師の経験が現在の医師というお仕事に何かお役に立ってますか？

全てが役に立っています。人との話し方、コミュニケーション、人はどうやったら喜んでくれるか、どうやったら信頼してくれるか、人それぞれどのような接し方が合うのか、何一つをとっても、全てが今の私を作る基礎になってくれる経験でした。中途半端にやれば、中途半端な結果や、中途半端な思い出しか残らない、しかし何でも一生懸命やれば、いずれどのような形でも、必ず役に立ちます。



一生懸命やれば、
いずれどのような形でも、
必ず役に立ちます。

●医師になって良かったと思う瞬間はどんな時ですか？

①不可能が可能になった時。

治療の選択だけでなく、患者様のやる気、医療スタッフの懸命な努力全てが統合して、難しいとされていた治療が成功した瞬間、神様が救って下さったと思いました。

②「もう大丈夫、安心して下さいね、全力でやりますから」と、その一言が出来る時。

虐待を受けてきた女性が命からがら病院まで来てくれたとき、「もう病院だから大丈夫ですよ」と震える体を抱きしめたとき、嬉しさのあまり涙を流して下さった患者様がいました。退院されるとき、頂いた手紙の中には「先生がいて下さるだけで、そして先生のかけて下さる温かい言葉に支えられて、今日も一生懸命生きて行ける人間がいることを、どうかいつも忘れないで下さい」と書いてあり、私も涙がこぼれました。

③ふっとした温かい一言を患者様にかけて頂けた時。また自分の診断や治療が結果となって返ってきた時。

私自身、まだまだ医師として未熟で、今は家庭教師という、生徒の立場です。上級医の先生に自分の勉強してきたことや、自分の考えを伝えて「よし、よく勉強して

きてるな」「よく患者様の事を見ていましたね」と褒められるとやはり嬉しいです。

●小児科を選ばれた理由をお聞かせ下さい。

子供が好きだからです。また、私の一番尊敬する祖父が小児科医であったことも大きな理由です。子供はどんな状況で生まれてきても、一生懸命生きようとする、頑張っている生きようとする、そんな一生懸命生きようとする命の手助けをしたい、そう思い小児科を専攻しました。

小児科は、まだ言葉も話せない、声なき声を受け止める、そして、その生命力の強さに素晴らしいさを感じる仕事ですが、逆に患者様は子供だけでなく、そのご家族も含めてであり、その子だけでなく、その子の背景も含めて考えなければいけないところが難しい仕事です。

●最後に医学部を目指す生徒さんに、注意する点、学習面で気を付ける点などアドバイスをお願いします。

是非多くの後輩達に医師を目指して貰いたいと思います。確かに自分のことを犠牲にしなければいけない場面にも沢山出くわします。

でも、私にとってこれほどやり甲斐のある仕事は、他にはありません。

医師とは患者様だけを見るのではなく、その背景までも考えて治療を考えていたり、話をしたりする必要があります。色んな経験や色んな体験、思いをしてきた人こそ、多くの人の様々な立場に立って物事を考えることが出来、医師に最適だと思います。

同時に毎日が変化に富んでいて、色んな人に出会える、人の生誕から亡くなるまで関われるという、素晴らしい仕事だと思います。私自身この仕事を選んで一日たりとも後悔したことはありません。是非皆さんにも私と同じ経験をして頂けたらと思います。



人の生誕から
亡くなるまで
関われるという、
素晴らしい仕事